様式1

令和３年度　学校評価表

学校教育目標	確かな学力を身に付け，心豊かにたくましく，ともに学ぶ児童の育成　～チーム・感謝・挨拶～

a　ミッションミッション ＜久保小学校の存在理由＞	○　中学校区で取り組む自己肯定感を高める教育の推進	a　ビジョン ＜目標とする学校の将来の姿＞	○　「素直な子」「自ら学ぶ子」を育てる学校 ○　移転してよかったと実感できる安心・安全な学校 ○　児童が憧れ頼れる教職員を育成する学校

尾道市立久保小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標 ＜３年後の姿＞	c 短期経営目標 ＜本年度の目標＞	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 度達成	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の育成	「主体的な学び」を促す授業づくりを進め，基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	主体的に学ぶ力の育成	○算数科を中心にほめる授業を実践する。 ・算数的な見方・考え方をほめる。 ・主体的な態度をほめる。	○学期末のまとめテストにおいて，クラスの平均点を，期待平均点（低学年９０％・高学年８０％）以上にする。 ○標準学力調査（１２月）において，クラスの平均点を全国平均以上にする。 ○主体性に関するアンケートを，目標値以上にする。	＜ﾃｽﾄ平均目標値＞ 1年生：９０ 2年生：９０ 3年生：９０ 4年生：８０ 5年生：８０ 6年生：８０ 学校合計　５１０ ＜標準学力調査＞ 12月に実施 〈主体性に関するアンケート〉 ４段階評価の内，３以上の評価をした児童８０％以上	＜ﾃｽﾄ平均目標値＞ 1年生：８６．１ 2年生：９１．５ 3年生：９１．３ 4年生：８８．６ 5年生：８０．８ 6年生：８３．０ 学校合計　５２１．３ ＜標準学力調査＞ 12月に実施 〈主体性に関するアンケート〉 ４段階評価の内，３以上の評価をした児童87％		１０２ １０８	A	・学年末まとめテスト（算数科）のクラスの平均が期待平均点を上回った学年は，６学年中５学年であった。基礎学力は定着している児童が大半であるが，学級内の学力差が大きい。 ・主体性に関しては，「あきらめずに取り組んでいる」児童は90％を超えており，学びに向かう姿勢を今後も継続できるようにしたい。一方，「話し合うなどして問題解決をすることができる」児童は81.1％とやや低かった。職員アンケートでは100％であったことから，職員の意識が児童へ伝わっていないと思われる。問題解決への仕掛け作りが必要である。	3			○「主体的な学び」を促す授業づくりに向け，「見方・考え方」を軸とした取組に期待します。 ○様々な教科ではなく，算数科に特化されていることに久保小としての意図を感じます。 ○児童一人一人をよく見ていないとほめるタイミングを間違えます。授業・生活態度の全般で対応して下さい。	・算数科を中心としたほめる授業を継続し，校内研究授業等を通して深めていく。 ・基礎力・活用力を付けるために，下校前に復習問題や活用問題に取り組む時間を短時間設け，取り組んでいく。 ・職員の意識と児童の捉えに差があることから，数学的な見方・考え方をほめることに加えて，児童同士や職員と児童の関わり（コミュニケーション力）の部分を意識的にほめる。
豊かな心と体の育成	生徒指導の三機能を生かした指導を充実し，自己指導能力の育成を図る。	自他を思いやる心の育成	○「久保のこだわり」を実践する。 ※「久保のこだわり」とは，ていねいな言葉遣いについて指標に表したものである。 ・「久保のこだわり」を徹底指導する。 ・アンケートの実施 ・言葉遣い名人の選出	○アンケートで肯定的な回答をした児童の割合 ・肯定的な回答をした児童÷全校児童数×100	80	89.8		112	A	・言葉遣いについては，児童の肯定的評価が89.8％，職員の見取りも86.4％あり，成果は上がってきている。 ・月毎に各学級で「言葉遣い名人」を選出しているが，選ばれる児童が固定化してきている。	3			○「久保のこだわり」について，全教職員と全児童が言えるよう，校内での共有を図って下さい。 ○とことんこだわれば良いと思っています。頑張って下さい。 ○言葉遣いは家庭・地域環境が影響しますが，生活の大半を過ごす学校。期待しています。	・毎月の言葉遣い名人に３回選ばれた児童は，「殿堂入り」とし，認証式で言葉遣い名人として認証するとともに，校内に児童の写真を掲示し紹介する。
		自己の体力を伸ばす子供の育成	○久保小アスリート検定（なわとび）を実施する。 １　各学年の体力に応じたレベルに挑戦させる。 ２　主体的に挑戦する児童を育てる。	１　各学年の目標をクリアした児童の割合 ・各学年でクリアした項目の総数÷（項目数×実施した人数）×１００ ２　主体的に次のレベルに挑戦した児童の割合 ※各学年のレベルを全てクリアした児童が対象 ・次のレベルに挑戦して１つでもクリアした児童数÷各学年のレベルを全てクリアした児童数×１００	１　８０ ２　８０	１　結果 1年生：６．７ 2年生：３５．７ 3年生：６６．７ 4年生：５０．０ 5年生：３３．３ 6年生：６５．０ 学校平均：４２．９ ２　結果 1年生：０ 2年生：０ 3年生：６０．０ 4年生：９０．０ 5年生：８５．７ 6年生：６９．２ ４学年平均→７６．３		75	C	・１については，「くぼリク」の練習と重なり，さらに，体育館ではなわとびができないので外のみでの実施であったため，十分な活動時間が確保できなかった。そのため，各学年にばらつきはあるものの，達成率は低い。本取組は年間を通しての活動であるため，継続していくことによって３学期には達成すると見込める。 ・２については，十分な声掛けをしていくことによって，児童は意欲的に次のレベル（高いレベル）に挑戦していくものと思われる。低学年は，まずは自分のレベルを十分に跳べるよう跳び方の説明等も十分に行っていたため，今後の伸びが期待できる。	3			○「生きる力」の一つとして体力は大きな要素の一つです。なわとびの実践を通して，たくましい児童の育成につなげて下さい。 ○アスリート検定は年々バージョンアップされてより現場に対応した内容でいいと思います。 ○楽しく体力UP，期待しています。	・なわとびにつながる運動を体育館でも取り入れるために，授業前の準備運動として以下の通り実施する。 【運動場】なわとび　３分間 【体育館】リバウンドジャンプ　１０回５セット ふえおに　１回 ・アスリート検定項目は変更せず，各学年の伸びを確認する。 ・アスリート検定期間中は休憩時間に各担任からなわとびを推奨するような声掛けを行う。

久保中学校とともに

と校もづにくり学ぶ学	小・中学校が同じ場所で学ぶ良さを生かし，自己肯定感・自己有用感の育成を図る。	愛挨を通した達成感・自己肯定感の育成	児童・生徒・教職員による「朝の（スマイルアクション）グリーティング（SAG）」の実施	朝，中学生に（アクションをつけて笑顔で）愛挨ができたと実感できた児童	50	44.2		88	B	・まずはお互いが挨拶をすることを目標に実施した。教員と生徒の挨拶は増えてきたが児童と生徒同士の挨拶はその機会の少なさもあり目標値に届かなかった。	3			○小・中と同じ立地にある利点を活かした活動をとてもうらやましく思います。 ○気持ちの入った挨拶→愛挨へ，継続して下さい。	・まずは，挨拶ができる環境づくりを生徒指導主事同士の連携を通して行っていく。 ・コロナ禍でできる範囲で児童生徒との関わりの場を増やす。11月の地域貢献活動及び避難訓練を小・中合同での活動とし，中学校と充分連携しながら計画・実施・評価していく。

【自己評価　評価】
A：１００≦（目標達成）　B：８０≦（ほぼ達成）＜１００
C：６０≦（もう少し）＜８０　D：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。